

「保険証を残してください」自治体請願運動の進捗

〈宝塚市〉

宝塚市議会は 11 月 28 日、総務常任委員会で、保険医協会北阪神支部として提出していた請願「健康保険証の存続を求める意見書を提出すること」に関して審議した。口頭陳述は請願者の中井通治支部長にかわり事務局が行い、質疑と討論が行われた。採決の結果、賛成 3、反対 4 で否決された。賛成は立憲民主党、社民党、共産党。反対は公明党、自民系保守会派、維新。

討論・質疑では重大な事実が明らかになった。市当局（理事・国保課長）答弁によれば、宝塚市国保被保険者で、マイナカード取得者に占める「マイナ保険証化」。すなわち「紐づけ率」は僅か 58%、後期高齢者制度では 43%に過ぎない。さらに、マイナ保険証未取得者に対して、国が発行方針を示している「資格確認書」の発行に必要な経費の試算もできず、予算も確保していないとの事。未だ「資格確認書」の形状も材質も総務省、厚労省が指示していないからという理由。こんな状態で、2024 年 11 月に現行の健康保険証を廃止すれば、医療現場が大混乱することは目に見えている。

不採択となり残念だが、この結果を広く知らせ運動を飛躍させていくことが求められている。他自治体への働きかけも粘り強く行っていきたい。

〈伊丹市〉

請願提出のためフォーラム伊丹へレクチャー。対応は天津留求、保田憲司、やまどの有理の 3 議員。結論、会派としては賛成できる内容なので協議するが紹介議員はできないとのこと。

〈川西市〉

共産党の北野紀子議員、市民ファーストかわにしの斯波やすはる議員の紹介で請願提出。

〈猪名川町〉

陳情として要望書を提出。

署名にご協力ください

まずは院長先生、ご家族、職員の皆さまで署名のご協力をお願いします。あわせて患者さんにもご協力を呼びかけていただきますようお願いいたします。

署名用紙のご注文は、(Tel 078-393-1807) まで。



兵庫県保険医協会

北阪神支部 ニュース

2023年12月15日号 No.342

発行者 兵庫県保険医協会北阪神支部
支部長 中井通治

〒650-0024 神戸市中央区海岸通 1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階

☎(078)393-1801 FAX(078)393-1802

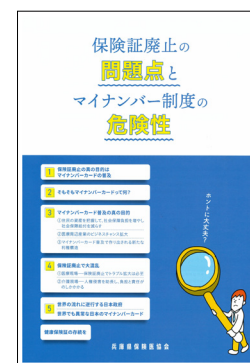
http://www.hhk.jp/

－ オール近畿アクション 2023 いのち奪う暴走政治ストップを－

なくすな保険証、社会保障の拡充で、いのち・暮らしを守ろう



健康保険証の存続を訴える集会とスタンディングの様子
島津評議員（上段写真左側から1人目）、（下段写真前列左から2人目）



パンフレット「保険証廃止の問題点とマイナンバー制度の危険性」

保険証廃止・マイナンバーカード普及の政府の狙いや、海外の制度との比較などを分かりやすく解説したパンフレットが完成しました。

お問い合わせ・ご注文は
Tel 078-393-1807 まで

11 月 5 日に難波御堂筋ホールで近畿アクション 2023「いのち奪う暴走政治ストップを」が開催され、加盟各団体から 350 人が参加した。北阪神支部から 4 人の役員、高島俊永、多田和彦両理事、島津俊二、西山茂樹両評議員が参加した。

基調報告では、西山裕康理事長がマイナンバーカードの保険証利用とその問題点について報告した。集会後は参加者が御堂筋でスタンディングし、道行く人々にアピールした。

第 102 回評議員会 北阪神支部 谷口評議員の発言

医療介護従事者の待遇改善のため、
診療報酬・介護報酬の大幅引き上げを求めよう

協会が 11 月 19 日に開催した評議員会で、北阪神支部からは谷口紀善評議員と島津俊二評議員が発言した。発言の要旨を掲載する。



谷口紀善評議員

日本の医療状況は著しく、少子高齢化や人口減少の影響を受ける。小泉構造改革以来、医療費の抑制、削減が続いている。小泉政権下では介護報酬の削減により、介護離職者が増加し現在も課題が残っている。価格高騰や人手不足に対応するため、看護助手や事務職員の給料引き上げが必要だ。一般の商品は原材料や公共料金、人件費の高騰により価格上昇している。これが物価高の要因だ。しかし、医療従事者の給料は診療報酬でしか賄えないにも関わらず、来年度診療報酬改定では、引き下げが提案されている。財務省により、開業医が儲けすぎではないかとの提案がされ、医療従事者に不安が広がっている。コロナ禍では、医療従事者が一体となって努力し、死者数を欧米に比べて少なく抑えたものの補助金は一時的であり、その後、医療機関経営は厳しさが続いている。医療現場の努力に対する適切な評価や支援が求められる。診療報酬の削減が続くことで、閉院する診療所や赤字となる病院が増加し、給料の増加が認められないことから離職者も増えている。この状況が悪のスパイラルを生みだしている。これでは医療従事者のスキルが劣化していく懸念がある。給料の適正な評価と改善が行われることで、スタッフのモチベーションが向上し、質の高い医療供給につながると考えられ、現場の努力に見合った診療報酬が確保されることで、医療従事者の専門性が維持され、患者への質の高いケアが維持される。

最後に今や著しい人口減少、少子高齢化が進み、凶悪な事件が起こっている今日この頃、地域におけるつながりが希薄化し、社会的孤立や生活困窮者の課題が深刻化している。人と人のつながり、福祉や医療などの生活関連分野との連携などで、地域の街づくりをさらにいっそう進める重要性が求められている。それにより、貧困をなくし、すべての人の健康と福祉、住み続けられるまちづくりなどの実現により、社会福祉のさらなる充実を目指さねばならない。それが私たちの使命でもある。協会での取り組みを求めたい。

兵庫県保険医協会のホームページは

<http://www.hhk.jp/>

*生涯研修に役立つ各種研究会のご案内、生活を支える共済制度のご紹介、日々の協会活動報告を掲載しております。ぜひご覧ください！

第 102 回評議員会 北阪神支部 島津評議員の発言

保険証を守れ！マイナ保険証問題の本質は
医療のスクラップアンドビルド

島津俊二評議員

長年マイナ問題には常に意見を申し上げてきたとおりでが、そもそもマイナ保険証問題の本質は何だったのか、一言で言うのなら、医療のスクラップアンドビルドと言える。古いものを切り捨て、新しいものに置き換え、効率的に医療情報を集約し、関連企業を効率化し、政府による管理を効率的にやろうとするものだった。ところが、その恩恵の対象はわれわれ医療機関ではなかった。現場無視と言える。

マイナ保険証で医療が効率化したと言える医療機関は存在するのか。決して存在しないと言い切れる。

オール近畿アクション 2023 では「保険証をのこせ！」と街頭に立った。これは医療機関側だけの発言ではない。患者さんも不安なのだ。

兵庫県保険医協会は医科歯科一体の協会だ。今回の医療DX(デジタルトランスフォーメーション)は小規模の医療機関に打撃だ。特に歯科医院においては対象となる医療機関は多いことを思い返していただきたい。マイナ保険証の問題で「保険証を残せ！」との声の中心は医科歯科の垣根はなく全医療機関の問題だ。決議案でマイナ問題での記述の「保険証を残せ！」の声明がないのは残念である。ご検討をお願いしたい。また、北阪神支部では、市会議員の先生方とも話をした。

マイナ問題の本質はスクラップアンドビルドであると言ったが、その「政府」自体がスクラップのような為体(ていたらく)で、マイナカードの設計ミスで紐づけができない、自治体等の仕事量を増やした結果、人海戦術のありがちなミスの連発、担当大臣は人権を軽んじた発言で行政処分、スクラップアンドビルドなら人事で失態続きの岸田政権こそがスクラップの対象だ。

北阪神支部としては各自治体に接触しており、川西市の例を資料に示す。この請願の内容はここ数年申し上げてきたマイナ問題だけでなく、そういうことを、自治体職員に押し付けて汲々としていることを何とかするべきだという意見だ。支部としては、各市会議員に当てて請願しており、諸般の事情で陳情という形で行なおうとしている。文書をご一読いただきたい。

☆北阪神支部ニュースへの投稿を募集しています

支部ニュースへの投稿を募集しています。

日常診療にかかわることや、主張、趣味のお話などお寄せください。

TEL 078-393-1817 / FAX 078-393-1802 e-mail s_oohashi@doc-net.or.jp 担当：大橋まで

